

▶ 愛知県常滑市

災害に強く 利用者にやさしい市役所へ



地域に寄り添い、街とともに考える、
コミュニケーション誌

INDEX

- 01 融資がつむぐまちづくり
- 05 地域のために がんばる公営競技
- 07 JFM TOPICS
- 11 利用してみよう! 地方支援業務
- 15 みんな気になる、お金のこと
- 17 わたしのシゴト わたしのジモト
- 18 機構からのお知らせ
- 19 私たちもJFM債買っています!!
- 19 編集後記



JFMの貸付事業

JFMでは、長期かつ低利な資金を地方公共団体に融資することで、地方公共団体の財政の健全な運営及び住民福祉の増進に貢献しています。

詳細はp.03



常滑市役所 概要 所在地:愛知県常滑市飛香台3丁目3番地の5 / 供用開始:令和4年1月 / 延べ床面積:9,792㎡ / 構造:鉄骨造 基礎免震構造

TOKONAME CITY HALL

常滑市役所

「千年続くやきもののまち」として知られる常滑市。この歴史あるまちの行政サービスの拠点であり、万一の災害時に復旧・復興活動の要となるのが令和4年に生まれ変わった常滑市役所です。地域の特色を活かしたデザインと利用者思いの設計が特徴の新庁舎を紹介します。





2階総合案内の陶壁*「やきもののまち常滑」を象徴する陶壁。見る角度によって表情が変化する陶壁は、「常滑の過去、現代、そして未来」を表しています。



スクラッチタイル*帝国ホテル日本館に使用され、常滑市の陶業発展のきっかけとなったスクラッチタイルを1,640名の市民の手で再現し、2階正面玄関の壁面に設置しています。



こども図書室*木製の床材や家具を使用し、暖かみのある空間を創出しています。床暖房完備のため冬でも暖かく、寝転びながら本を読むことができます。



連絡通路*市役所と市民病院、立体駐車場をつなぐ連絡通路です。雨の日も傘を差さずに3つの建物を行き来することができます。



円形議場*輪になって座り、互いの顔を見て活発な議論ができるよう円形の議場を採用。可動式の什器を使用しているため、多目的な利用が可能です。



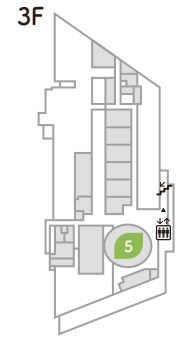
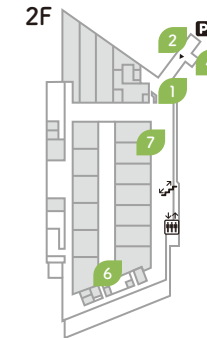
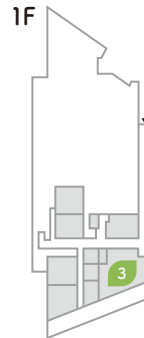
コミュニケーションエリア*2階執務エリアの中央スペースには、複数の部署が集まれる打合せ用の机や、Web会議ブースを設けています。



ワンフロアにまとまる市民窓口*メインフロアである2階に、市民の利用頻度が高い窓口部門を集約し、来庁者の利便性を高めています。

FLOOR GUIDE

1階には時間外受付のほか、閉庁時でも利用可能なこども図書室を設置。2階は市民の利用頻度が高い窓口をワンフロアに集約しています。3階の西側は議会エリアとして使用。東側は市長室などの執行部エリアと防災関連部門が連携しやすい配置となっており、有事の際には災害対策本部として迅速に対応できるようになっています。



利用者も職員も使いやすい新庁舎

耐震性能、津波による浸水・液状化の危険性等の問題を抱えていた旧庁舎からの移転・建て替えを経て誕生した常滑市役所。海岸から約3km離れた高台にあり、耐震性能グレードは「免震上級」で、震度7程度の地震が発生しても業務など最低限の活動に必要な機能が確保できます。周辺の住宅に対して圧迫感がないように配慮した3階建ての低層建物で、フロア面積を広く取り、市民窓口を回廊状に設けてその中に執務エリアをまとめることで、来庁者の利便性を高めるとともに、職員同士のコミュニケーションも図りやすい設計になっています。こども図書室を併設していることから、小さなお子さまを連れた来庁者も多く見られ、利用者からは「よく利用する窓口がワンフロアにあり、関連した部署が近接した位置に配置されていてわかりやすい」というご意見をいただいています。また、日本経済新聞社と一般社団法人ニューオフィス推進協会が主催する第35回日経ニューオフィス賞(2022年度)において、「中部ニューオフィス推進賞」を受賞するなど、利用者と専門家の双方から高い評価を受けています。

とこなめ子ども議会



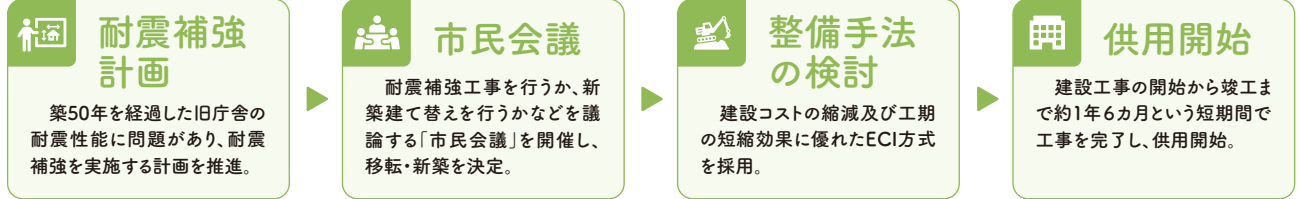
3階の議場を利用し、地元の中学生を招いた模擬議会「とこなめ子ども議会」を開催しています。市議会定例会の一般質問の形式で中学生が意見を発表し、市議会議員が答弁します。市の未来に向けた提案もあり、有意義な議会となっています。

災害に強く利用者にやさしい市役所へ

旧庁舎からの移転・新築により、令和4年1月に供用開始した常滑市役所。
常滑市 企画部 企画課の柴垣 道拓さんに、新庁舎建設の経緯や、今後の展望などを伺いました。



▶ 新庁舎ができるまで



企画部 企画課
柴垣 道拓 課長

≡ ECI方式を採用し、約1年半で建設工事を完了

昭和44年に建設された旧庁舎は、愛知県内の市庁舎で唯一耐震性能を満たしておらず、さらに、浸水や液状化の危険性がある地域に立地していました。こうした状況に危機感を覚えて耐震補強計画を進める中、平成28年に熊本地震、鳥取県中部地震が発生。庁舎が倒壊した地方公共団体の復興の困難さを目の当たりにし、「地震などの災害に耐えられるだけでなく、業務の継続ができる市庁舎であること」を庁舎整備の方針としました。この方針に向けて、庁舎の今後のあり方を考える市民会議を開催し、災害時においても業務継続可能な高台への移転・新築を行うことが決定しました。新庁舎の建設にあたっては、設計段階から施工候補者が参画し、施工の実施を前提として設計に対する技術協力を行う「ECI方式」を採用。これにより、建設工事の開始から竣工まで約1年6カ月という短期間で完了することができました。

≡ 身近な存在であり大きな信頼を寄せるJFM

新庁舎建設では、「緊急防災・減災事業債」を財源とし、長期的に低金利で利用できるJFMの融資を活用しました。常滑市が運営する「ポートレースとこなめ」の収益の一部を財源として活用いただいているため、JFMは身近な存在であるとともに大きな信頼を寄せており、さまざまな施設整備に融資を活用させていただいています。

新庁舎の供用開始後、来庁者からは「綺麗になって利用しやすくなった」「職員の表情も以前より明るく感じる」といった嬉しい声をいただいています。新しく生まれ変わった常滑市役所を拠点に行政サービスを展開し、これからも地域に貢献していきたいと思えます。

STAFF

VOICE



市民生活部 市民窓口課
井上 祥太郎 主事

市民窓口課に所属し、住所異動、戸籍届出、各種証明書発行などを主に担当しています。新庁舎はさまざまな窓口がワンフロアに集約されているため、利用者への案内が行いやすくなりました。また、他部署との距離が近くなり、市役所としての一体感が高まったように感じています。庁舎が新しく便利になったように、私たち職員も日々スキルアップし、市民サービスを向上させていきたいと思えます。

本件で活用いただいた制度

緊急防災・減災事業

災害に強いまちづくりのための事業、災害に迅速に対応するための情報網の構築及び地域の防災力を強化するための施設の整備などの地方単独事業等を対象として貸付を行います。



融資活用事例一覧はこちら

JFMスタッフMessage

今回ご紹介した緊急防災・減災事業につきまして、令和4年度においては、全国の地方公共団体に対し、総額1,227億円の貸付けを行いました。JFMでは、借入条件の検討をサポートするセルフチェックシートや償還年次表シミュレーションの利用促進、借入手続きのさらなる簡素化等、機構資金を活用しやすい環境の整備に取り組んでいます。

借入事務にあたり、ご不明な点などありましたら、お気軽に融資部各領域担当までご相談ください。



融資管理課 愛知県担当
佐山 雄樹

愛知県常滑市の まちづくり



[人口]

58,636人

(2024年2月末日現在)



[世帯数]

25,858世帯



[面積]

55.90 km²



常滑市ホームページ



常滑市キャラクター
「トコタン」

目指すまちの姿の実現に向けて 計画的なまちづくりを推進しています。

常滑市では、令和4年度に「第6次常滑市総合計画」を策定し、令和10年度の本市が
目指すまちの姿を「とことん住みたい 世界とつながる 魅力創造都市」と定め、次の7つの
「基本目標」を掲げて計画的にまちづくりを進めています。

- ①子どもが健やかに育ち、輝けるまち
- ②創造性や豊かな心を育むまち
- ③共に生き、支え合い、安心して暮らせるまち
- ④安全な暮らしを守るまち
- ⑤快適に過ごせる生活基盤が整備されたまち
- ⑥魅力にあふれ、人が集い、進化するまち
- ⑦みんなで創る、持続可能なまち

▶ 行政 Pick Up! 注目の行政事業を紹介します。

常滑市は、令和6年4月1日に市制70周年を迎えます。この節目となる記念の年に、「特別記念事業」「市主催事業」「協賛事業」の3区分による周年記念事業を実施予定です。中でも「特別記念事業」は、まちづくりの主役となる市民や市民団体などが主体となって行うもので、次の3つの取組の実施を予定しています。

◎ 第四回とこなめ山車まつり

時期 令和6年11月2日(土)・3日(日)

概要 市内の山車21輦が集結し、からくり・三番叟・囃子を披露。11月2日が前夜祭で、3日が本祭り。

主催 とこなめ山車まつり実行委員会(市民団体)



◎ TOUCH! TOKONAME

時期 令和6年9月～11月

概要 市内の公共施設やカフェ、ゲストハウス等にて国内外のアーティストとの交流事業(ワークショップなど)を実施。

主催 CROSS ART TOKONAME(市民団体)



◎ 子どもの夢かなえる事業

時期 令和6年8月下旬

概要 人気お笑い芸人と子どもたちの交流イベントを中部国際空港(セントレア)等で開催。地域にゆかりのある事業者や大学と連携し、地域一体となって夢を実現。

主催 中京テレビ放送株式会社



▶ 進めています! 業務効率化

UDトークの導入 3階の議場に音声認識ソフトを活用した文字表示システムである「UDトーク」を導入しました。発言がモニターに表示されるようになり、耳が不自由な方も傍聴しやすい環境となりました。また、本システムには文字起こし機能もあり、議事録作成に要する時間を大幅に短縮できました。

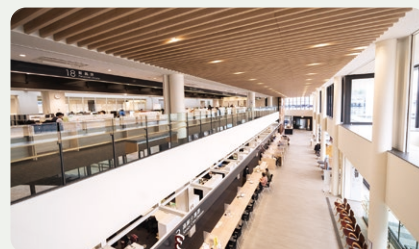
市公式LINEの多機能化 市民の皆様が、いつでもどこでもスマートフォンなどから申請や手続きができるよう、市公式LINEの多機能化を図っています。今後もデジタル技術の活用により、電子申請、キャッシュレス決済、通報機能など、市民サービスの一層の充実を図るとともに、業務効率化を推進していきます。



常滑市役所の皆さん



常滑の焼き物を用いたルーバー



明るく開放感のある窓口エリア